

[様式 2-2表]

第一種奨学金貸与月額変更願(届)(減額)

独立行政法人
日本学生支援機構理事長 殿

記入例

奨学生番号										学籍番号 JS111	提出日	西暦 20X3 年 11月 17日			
6	X	3	0	4	0	0	2	1	1		2	生年月日	西暦 20X1 年 10月 1日 (満 22 歳)		
大学(院) 短期大学		奨学金		学部		貸与		学科(科)			フリガナ	キコウ タロウ			
日本学生 支援機構		学校		課程		研究科			4 年次			氏名 (自署)	機構 太郎		

自宅外から自宅へ戻った日付を記入。

■ 月額変更 (「変更可能月額一覧表(第一種奨学金)」を参照して記入してください。)

機構使用欄 (変更始期)	年		月	
	2	0		

本人現住所 (転居予定の場合は転居先住所) (<input checked="" type="checkbox"/> 該当にチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 自宅外	入居日	西暦 20X3年 7月 26日入居	〒 226-8503	神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3		
生計維持者住所	生計維持者氏名 氏名 (機構 友) 〒 226-8503 神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3						
	生計維持者氏名 氏名 (機構 育) 〒 226-8503 神奈川県横浜市緑区長津田町4259 S-3						
変更内容 (①~④のうち、該当するいずれかに <input checked="" type="checkbox"/>)	<input checked="" type="checkbox"/> 通学形態変更を伴う減額 <input checked="" type="checkbox"/> ①自宅外月額から自宅月額へ→入居月の翌月(月の初日の場合はその月)が減額始期(選択不可) <input type="checkbox"/> その他の減額(注) <input type="checkbox"/> ②転学・編入学(様式6・様式7-1)と同時に減額→学校担当者に減額始期を確認してください。 <input type="checkbox"/> ③大学院生 <input type="checkbox"/> ④上記①~③以外の減額						
減額始期	2 0 X 3 年 8 月 7月26日に自宅に戻ったので、減額始期は8月。 (①のとおり選択不可。希望はできません。) 国公立大学の自宅外最高月額から 自宅最高月額へ変更。						
従前の奨学金月額	5 1 0 0 0 円		→		希望する奨学金月額	4 5 0 0 0 円	
変更する理由	一人暮らしをしていたが、地元での就職が決まり、卒業の見通しも立ったため、実家に戻った。						

【遡って減額した場合の調整例】

(本例では1月振込反映の申請期限までに不備がない状態で機構に届いた場合を想定しています。)

自宅外から自宅に戻ったことに伴い、本来は8月から45,000円とするべきところ、8月から12月までの間、毎月差額6,000円、計30,000円の振込超過が発生している。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本来	51,000円	45,000円	45,000円	45,000円	45,000円	45,000円	45,000円	90,000円	満期
↓		↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	↓ 差額 6千円	計3万円		
実際	51,000円	51,000円	51,000円	51,000円	51,000円	51,000円	15,000円	90,000円	満期
		↑ 減額始期: 8月					↑ 振込反映月: 1月		
	8月から自宅月額とするべきところ、11月まで自宅外の月額で振り込まれている。		1月反映の提出期限に提出されたため、12月も振込51,000円			1月に本来の額-差額の振込 2月に本来の額の振込 (3月満期のため2か月分の振込)			

1月には45,000円から振込超過となっている30,000円を差し引いた15,000円が振り込まれます。
(なお、3月卒業で満期を迎えるため、2月には2か月分がまとめて振り込まれます。)